



平成 28 年 7 月 6 日

<各位>

ナノキャリア株式会社  
代表取締役社長 中富一郎  
(4571 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役CFO兼社長室長 松山哲人  
電話番号 03-3241-0553

## 日本化薬株式会社のNK105に関する発表についての当社見解について

日本化薬株式会社(本社:東京、代表取締役社長:鈴木政信)より、平成28年7月5日付で、パクリタキセル内包高分子ミセル(開発コード NK105)の転移・再発乳癌を対象にした第III相試験において、主要評価項目が達成されなかったと発表されましたが、当社の主要パイプラインとは、根幹をなす以下の技術的な相違があること、また、日本化薬とのライセンス契約は当社の独自技術としては初期段階における技術導出であることから、この発表による当社の今期の業績には一切影響がないことをお知らせいたします。

当社が日本化薬株式会社にライセンスしたパクリタキセル内包高分子ミセル技術は、薬物をミセル内に物理吸着させた製剤であり、当社技術シリーズでは第1世代のものです。パクリタキセルの単独投与ではヒト血中滞留時間(半減期)は約30分ですが、ミセル化により10時間程度にまで延長できる徐放性能から、NK105への期待が寄せられていました。

一方、当社のNC-6004、NC-4016やNC-6300は第2世代に位置づけられ、薬物をミセル内に化学的に結合させた製剤であり、NC-6004 やNC-4016では薬物のヒト血中半減期は100時間以上を示し、薬物放出制御の精度が飛躍的に進化しています。当社の経験から、ミセル製剤の薬物放出制御能は、副作用軽減と薬効に極めて影響を与えるものと考えております。

当社が平成28年6月16日付で発表したNC-6004の国内第I相試験結果が示したように、副作用は当初の設計どおり著しく軽減していることが確認されています。また、先ごろ米国癌治療学会の期間中に開催した欧米の治験責任医師を招いた会合においては、NC-6004の米国第I相試験の結果が報告され、第II相試験の推進に高い支持が得られております。

当社はミセル化ナノ粒子医薬品が一日も早く実用化し、患者さんのQOL改善に貢献するよう、今後も着実に開発や他社との連携を推進して参ります。

以上